

## 第15回環境教育・環境学習ネットワーク会議議事要旨

日 時：平成26年11月11日（火） 15:00～17:00

場 所：市役所 3階会議室B

出席委員：高橋弘二座長、鈴木副座長、稲構成員、内船構成員、桐谷構成員、高橋直人  
構成員、高橋正明構成員、橘構成員、奈良谷構成員、野崎構成員（10名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、高橋、山中）

傍聴：なし

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 報告

（1）平成26年度教員向け環境学習講座の実施結果について

（2）平成26年度相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について

#### 3 議題

（1）平成27年度相互交流を生かした人材育成講座について

（2）横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しの方向性について

#### 4 その他

事務連絡

### ◆報告1 「平成26年度教員向け環境学習講座の実施結果について」

〔要旨〕

平成26年8月12日（火）に沢山池の里山で教員向け環境学習講座を実施した。16名の教員の参加（申込18名）があり、ネットワーク会議からは4名が参加した（うち1名は教員としての参加）。「自然環境としての田んぼ」をテーマに講座を組んだ。講座内容については、講義およびフィールドワークともに好評であった。教育委員会の評価も好評であり、来年度以降も同様に連携研修として実施していきたい。

### 高橋座長

この会議からは、橘さん、野崎さん、内船さん、そして私が参加した。また教育委員会教育指導課から太田指導主事が参加され、最後に総括的な話をされた。皆さんから感想をお聞きする前に、太田指導主事より感想が届いているので、事務局からご紹介ください。

## 高橋(事務局)

太田指導主事は本日欠席だが、当日の会についてご連絡をいただいた。

### 【感想】

- ・研修講座が教育研究所と連携できたことで教員への周知がなされ、環境教育に携わる教員が多く参加できた。
- ・横須賀出身ではない教員にとって、横須賀市の自然環境への更なる理解、市の環境政策の方向性等、学校の指導に活かせる研修となった。
- ・横須賀らしさが見える研修であり地域での活動の充実が、地球規模でのESDにつながる実感ができる。

### 【要望】

- ・また可能であれば来年度も研修講座として実施して欲しい。

## 高橋座長

それでは、今日の出席者の中で参加された橘さん、お願いします。

## 橘構成員

私は、教諭として申し込みをした。毎年7月1日から研修の申し込みが開始され、教員はリストから自分の興味があり都合がつくところを選んで、教育研究所のホームページから研修申し込みを行う。私は真っ先にこの講座を見付け申し込んだ。他にも教員が来ていたが、以前にやっていた総合学習の研究会主体のものだと、研究会のメンバーが中心となり、なかなか広がりを感じられなかった。人数は集まるが、いつもの仲間内での学習会というかたちにとどまっていた。今年度、教育委員会を通してリストアップされた研修の一つとして位置づけられたことで、参加者の広がりがあったと思う。内容的にも興味深く、もっと暑いかなど思っていたが、やはり里山という場所でそれほど暑くないと感じたし、肌で感じるような学習ができたのがとても良かった。ぜひ、今後もこのようなかたちの講座を作っていただけたらと思う。

## 高橋座長

ありがとうございました。それでは野崎さんお願いします。

## 野崎構成員

私は活動場所が大楠地域なので、沢山池は近いフィールドになる。横須賀市の里山再生の協働事業として田んぼを作り、周りの整備を広く行った。昔に比べると、随分場所自身の魅力が高まったように思う。フィールドを具体的に間近に見ることができ、昔からの変化も合せて大変興味深く現場に入らせていただいた。地域で自然活動をしている身としては、私たちも沢山池周辺の里山の中で自然観察の説明や案内をするので、その

辺りの方法、テクニックを天白さんから伺いたいと思い参加した。

当日は、現地の見学の後、そのまま解散となったので、参加された先生方がどのように感じられたかなというのを大変興味深く思っていたが、今日この意見のまとめを拝見して、よくわかった。地域で市民活動している者としては、ここが一番知りたい部分である。ありがとうございました。

後は、今年の夏前半はかなり暑かったので、私は予想していなかったハチの被害があったということで、いつもより早い時期からハチが活動していたと改めて思った。課題に、応急処置研修の実施、安全対策と書いてあったが、先生方も現地に入られるときに応急処置を現実に学ぶ場があった方がよろしいかと思った。

### 高橋座長

ありがとうございました。当日はハチに刺されるという予想外のことが起こった。では、内船さんお願いします。

### 内船構成員

横須賀の代表的な自然を見ることが1つのテーマになっている。自然を見てみんなで歩いて紹介するだけでは不十分だったところを、今回は講義を入れていた。また、フィールドをあえて自然だけではなく、そこに人間の生活もある里山という場所を選んでみた。講義の感想に、「これまで思っていた里山や自然の生態系の捉え方が変わった」などの意見があったことから、イメージの変化があった後に自然を見るというのは参加者にとってもかなり違った視点で自然を見る機会になったと思った。

限られた時間の中で、どこまでやるかという点で、今回はかなり色々な要素を取り込めたと感じた。参加された方の中で、地域のフィールドの中にある魅力をもう少し掘り下げられないかという動きが新しく起こるなど、もう一歩、二歩進めていけたらいいと感じた。

### 高橋座長

ありがとうございました。

私は里山実行委員会のメンバーになっている。田植えの前から稲刈りまで手伝っている。荻野小学校は沢山池の里山で田植えをやり、稲刈りをやっている。学校にも田んぼはあるのだが、そういう体験を出来て良かったと思う。参加された先生方が同じ体験を自分の学校でやろうと思っても無理なので、講義の中から自分の学校の近くで、自然に対して子どもたちが興味を持って取り組めるプログラムを先生方に考えてもらうヒントがあったのではないかと思った。横須賀市内に小学校が46校あるが、同じようにあのような場所へ行って帰って来れる学校はそうはないので、その辺は参加された先生方で考えていただければと思う。いい機会だったので、今後ともこのプログラムは続けて

いって欲しい。参加された以外の方で何かご意見、質問があればお願いします。

稲先生、この講座はご存知でしたか。

#### 稲構成員

知っていたが、自分の学年のサマースクールがあり参加できず、申し訳なかった。今年教育委員会からお知らせしていただいたので、かなり早い段階で私も知っていたし、先生方も知る機会があり良かったと思う。行けずに残念だった。

#### 高橋座長

橋先生、周りの先生はいかがでしたか。

#### 橋構成員

時期的なことだが、この週は帰省されている方も多い。7月の後半から8月の始め、また8月の後半は他の研修も立て込んではいるが人がいる時期なので、企画する際にそのようなことも考慮するといいたいと思う。

#### 高橋正明構成員

今日のお話を聞いて感じたことだが、皆さん参加されて非常に良かったということと、教育委員会の連携が非常に上手くいって効果があったというのが非常に良かったので、来年も続けるといいと思う。

また、最後に座長が言われたプログラム作りということで感じたのだが、先生が一回参加されてもすぐにプログラム作りは出来ないと思う。講師の先生と一緒にプログラム作りということも体験をし、このようなことが出来る先生を増やす方向も一つあるかなと感じた。今後の課題として取り入れるといいかと思う。

#### 高橋座長

ありがとうございました。

#### 鈴木構成員

先程、職員の方が怪我をされたということで、子どもたちを連れて行くのは難しい、危険箇所があったということだったが、どのような負傷をしたのか、あるいは団体のレクリエーション保険に入っていたのかをお聞きしたい。

#### 高橋座長

事務局、お願いします。

### 笠原主査（事務局）

1つ目の怪我については、里山の奥の方の山道を歩いている時に、ハチの巣が足元にあり、歩くことによりハチを刺激してしまった関係で、後ろを歩いていた職員二人がキイロスズメバチに刺された。市民病院に行き、飲み薬、塗り薬で対応した。

### 鈴木構成員

髪の毛が黒かったり、香水をつけていたり、黒い服を着ているとハチを刺激してしまうそうだ。

### 笠原主査（事務局）

二人とも黒いズボンをはいていた。こういう場面に関らず、フィールドワークをする上で、「長袖、長ズボン、なるべく黒いものは外す」などの周知が必要と感じた。

2つ目の保険に関しては、今回は特に入っていない。学校で活動される時、児童生徒は入っていると思う。

市の事業の中で、市民の方にボランティア活動をお願いする時はボランティア保険に加入しており、イベントではイベント保険に入っているが、今回保険は入っていなかった。

### 鈴木構成員

ハチに刺された程度ならいいが、はずみで下に落ちて死亡してしまったというときに、保険に入っていないと主催者が責められると思うので検討した方がいいのではないかと。

### 笠原主査（事務局）

イベントの内容によっては、参加料として保険料を取ったりしている。今回の講座はフィールドワークを伴っていたが、保険には入っていなかったため、今後は万一のことも踏まえ検討していきたいと思う。

## ◆報告2 平成26年度 相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について①

### 〔要旨〕

平成26年10月7日（火）に「広げよう環境教育」をテーマとした講座を実施した。環境活動団体参加者を中心に、企業、市職員から計30名の参加があった。「行動につながる環境教育」をテーマとし、講義「ソーシャル・マーケティングによる戦略的環境コミュニケーション」と活動者による事例発表を行った。参加者のアンケートから、特に事例発表が好評であった。

## 高橋座長

事例発表をされた方、感想などあったらお願いします。

## 野崎構成員

今回の講座の対象は市民活動団体と市職員で、行動につなげる環境教育の紹介をした。この講座の日時では学校の先生にはお出でいただけなかったのですが、教育現場での実践につながる活動があり、学校の先生方にも、子どもたちにもできることを知って欲しかった。また別の機会も与えていただけると嬉しいと感じている。

## 高橋正明構成員

私は環境企画課の中に事務局がある横須賀市地球温暖化対策地域協議会で活動をしている。その中の省エネルギー推進プロジェクトチームで、省エネや節電の大切さを広めたいと活動している。直接の教育というよりは、例えば学校を通して夏休みに「節電コンクール」をやっている。節電コンクールということでそれだけを捉えると狭いと感じるが、学校を通してお家の方も含めて広めるという広い意味での環境教育になっているということで紹介させていただいた。こういうものも環境教育の一部なんだと皆様のご参考になればという気持ちで行った。活動の結果としては、学校から少しずつ広まっていくかなという感じ、学校から生徒さんから親御さんへ広がりを持つような方向の教育があるのかということでお話させていただいた。そういう感触が少しずつ掴めていると感じた。アンケートを見ると、興味深く聞いてくださった方もいらしたので、今後もこういう育成講座を継続していくと少しずつ広がっていくと感じた。

## 高橋座長

私も野崎さんが言われたような考えで、今回対象が自然環境団体の方たちで、その方たちが興味本位で参加して「色々なことをやっているな」と思ってくれたことはアンケートを見てわかるのだが、その人たちがこれをどう生かしてくれるかという点になると、その辺はどうかと思う。同じ内容でも色々な対象の方たちに参加してもらい、同じような企画があってもいいかなという気がした。

### ◆報告2 平成26年度 相互交流を生かした人材育成講座の実施結果について②

〔要旨〕

10月24日（金）に市内企業の環境の取組みの視察として、日産追浜工場の見学を実施した。市民活動団体、企業から18名の参加があった。工場としての環境の取組み、会社としての取組み、環境に配慮した車の開発、工場見学、エコカーの試乗と多彩な内容で、参加者の多くが市内企業の環境の取組みを深く知る機会となった。

## 高橋座長

この見学会を計画し、実際にご説明いただいた日産の桐谷さんから一言お願いします。

## 桐谷構成員

昨年からのネットワーク会議に参加させていただき、そのお陰もありこのような機会を与えていただいたことを有難く思っている。ありがとうございます。日産はアピールがあまり上手ではないのだが、地域とのつながりにここ数年力を入れてきている。

追浜工場はご承知のとおり、最先端の技術をやっているところから開発、生産と、かなり幅広い分野の事業を行っている事業所になる。他の事業所でそこまで幅広くやっているところはない。そういったこともあり、今回報告でご紹介いただいたが、会社全体の取り組みから始まって、追浜事業所が日常どのような活動をやっているのかという流れになる説明の仕方ですスケジュールを組んだ。全体としては皆さんにそういった活動内容をご理解いただけたと思い、喜んでいる。我々も良かったと受け取っている。

今回二時間半という非常に短い時間だったので、どちらかと言うと事業内容に寄った説明が多かった。もう少し会社周囲の自然環境であるとか、「ふるさとの森」という山があるのですが、実際に自然がどうなっているのかなど、そういったところもまた機会がありましたらご紹介していきたいと思っている。どうもありがとうございました。

## ◆議題1 「平成27年度相互交流を生かした人材育成講座について」

### 【事務局からの説明】

平成27年度の相互交流を生かした人材育成講座の企画に向けて、内容や対象などを自由に議論していただきたい。本日の意見をもとに、具体的な企画案を作成する。

論点としては、講座の内容や、現在の講座の構成、講座に協力できることなど。

## 高橋座長

今、説明がありました件について質問や確認事項がありましたらお願いします。

特になければ、議論していただきたい項目があげられているので、皆さんのお考えをお聞きしたい。

## 内船構成員

確認で幾つか質問がある。この「2回を目標に…」の2回とは、先程報告1、2でいただいた、教員向けの講座とは別に2回あるということですか。資料3の別表には、教員向けも相互交流を生かした人材育成講座も一緒にまとまっているが、3回やって1回は確実に先生向けにやり、後の2回をどうするかということで、教員向けには特に考えなくてよろしいのか。

### 笠原主査（事務局）

資料3の別表に平成23年度から始まった「相互交流を生かした人材育成講座」についてまとめている。資料3の「2回」というのは、今年度実施した1回目が座学として松本先生の講義と事例発表、2回目が日産自動車追浜工場に伺ったこの2回と同様な形の2回を想定しての内容になる。

学校の先生向けの講座は、今回教育研究所のご理解をいただき、連携講座として開催した。先生からも好評で教育研究所の認知の効果も非常にあり応募も多かったため、来年も引き続きこの体制でやっていこうと思っている。しかし、先生向けの講座については、研修という位置づけがあるので、環境教育という大きな枠の中でどういった内容がいいかというところは、先生からのご要望やニーズにより教育研究所と詰めていきたい。今年度もそのようなかたちで里山を主題にしたので、来年度も3回の内、1回については、教育研究所と調整をしながら学校の先生の研修として位置づけ、環境教育という枠の中で今後内容を詰めていき、出来れば次回のこの会議で方向性を示せればと思っている。

今日、議論いただきたいのはそれ以外の2回の部分で、資料にある「知識を深める研修」・「技術を身につける研修」という視点での2回の講座について、議論していただければと思う。

### 高橋座長

では、教職員向け講座は、この2回には含まないということよろしいですね。

テーマ、目的が「人材育成」。これから環境教育をやってくれる裾野を広げたいのが目的だと思うが、これまでやっている研修会が、果たしてどれだけ人材育成に役立っているか。人材育成のために具体的にどんなことが盛り込まれているかと考えてこれまでやったものを見ると、知識を広めることには役立っているだろう。しかし、参加した人たちが今度は裾野を広げていくという点からどれだけ役立っているか。今のやり方をそのまま続けていっていいのかと思う。先日の事例発表に参加してくれた自然環境団体の方がどれだけ他の人に対する環境教育をやっけていこうと考えていってくれるかどうか。先生の話や事例発表を聞くだけに来たのであって、それを生かして何をやろうかと、参加した人たちがそこまで考えてくれているかどうか。

野崎さん、その辺りどう思われますか。

### 野崎構成員

私たちは、地域の活動団体のグループの一員として参加している。「人材育成」という観点から、「環境教育のための学習はどこでしたのか」と伺うと、「県の環境学習リーダー養成講座に通って勉強した」とか「アイクルに行って廃棄物について勉強した」など



で、他の団体がどのような活動をしているか聞いただけではなかなか人材育成にはつながりにくいのかと思う。具体的に、他の方たちに力をつけていただく場としては、一回だけでは本来の目的を達成するのはなかなか難しい。そうかと言って、具体的にどういうものを横須賀市でできるかと考えると難しい問題も出てくると思う。県の環境学習リーダー養成講座を受けている時に、県全体のことを学ぶ前に、横須賀市あるいは自分たちの地域のことを実際に学んでいくということが一番力になるとはいつも思っていた。横須賀市なりの何か機会ができると、より強い人材育成の場になると思う。しかし、具体的にアイデアを提出できる状態ではない。廃棄物について、アイクルマイスターの養成は長いこと実施されていない状況だ。

### 高橋座長

今回もそうだったが、自然環境団体に参加している人が対象だった。他の人を呼び寄せられないかと思うのだが。

### 高橋直人構成員

今、お話を伺っていて、「議題1 1. 本日議論していただくこと」にある「人材育成講座を通して求める人材像」、これがはっきりしていないといけないと思った。この人材を求めるにあたって、座長が仰っていたように、環境に関心を持ってもらいたい人たちにもう少し関心を持ってもらうには、今活動している人たちが、その人たちを引っ張り上げるためのノウハウとか、色々なものを身につけるにはどういったことを学ばばいいのかということも講座の内容の一つとしてあるのかもしれない。それには一回、2時間、3時間くらいの講座でそこまでもっていくのは厳しい。長い目で見れば、活動している人たちが関心を持ってもらいたい人たちを引っ張りあげていくということはあるかもしれないが、一回だけだと啓発的なことだけ、表面的なことだけで終わってしまう気がする。

### 鈴木構成員

人材育成は非常に難しいことだと思う。どなたを対象に人材育成をするか。人材育成をした、それが本当に人材育成になっているのか。講義を聞いた、それっきりになっているのか結果が分かっていない。求めるのが一体何なのかという対象物がない限り、そこで終わってしまう気がする。別件ですが、里山も、先生方が行かれて、学校に帰って、里山には行かれないが学校周辺の生き物、植物を対象にと頭の中では描いていてもそれが実際に出来るかどうか疑問に思う。

### 稲構成員

我々教師は、環境学習に対する専門知識とかを深く身につけるのはなかなか難しいと

思っている。しかし、ある程度の知識を持っている方にゲストティーチャーとして来ていただき、その授業をコーディネートしながら子どもたちに環境学習について学んでもらうことはできるのかなと思っている。環境について深く理解をしている方がたくさんいらっしゃれば我々としては助かる。私たち自身も当然学んでいかなければならないと思っているが、まずはそういう方とのつながりを深めていながらコーディネートできればと考えている。

### 奈良谷構成員

座長の言ったピラミッドの外側の人を取り込むには、ピラミッドの人に仕掛けていかないといけないと思う。野崎さんの言うように、自分が環境に足を踏み込んだきっかけを考えると、今のプログラムでは人材育成というところまでは届いていないだろう。しかし、活動に取り組むきっかけには間違いなくなっていると思う。始めて4年になるが、一回全体を見直してみると新しい方法が見つかると思う。

### 内船構成員

人材育成講座ということで、事務局の案では、単に知識だけでなく「技術の取得」と、「知識を深める」ことの二つの方向性を提示していただいているのかと思う。「技術」と「知識」とすると、例えば「技術」は対象が自然環境団体とすると、団体活動に生かせる技術をもう少し具体的に取得する機会にならないか。例えば、団体あるいは小中学生へ教える際に活用できるインタープリテーションとかファシリテーションといったものを、具体的な技術として提供する、学べる場とするというのが技術としてあるのではないか。もう一つは知識を深めるということまでではなく、それを講座の中でどう生かしていくか、生かし方までフォローしていくような知識の提供の場を作れたらいいと思う。

もう一つ述べたいのだが、一回2、3時間で身に付く技術、知識というのは、実際には難しいというご意見があり、私もその通りだと思う。そうすると、この短時間の講座でできる範囲でやれることを考えると、覆してしまうようで申し訳ないが、一つは刺激する講座、何か心に火をつけるような2、3時間でインパクトを与える講座や、人のつながりを実現するなら、あえて顔見知りになる講座であれば、短時間で成果が出るのではないかと思った。

### 高橋座長

ありがとうございました。

今具体的な話もたくさん出てきたが、その考えをどう方向付けするのか、あるいは相互交流講座の基本的な考えをどうするのかということがまとまっていないといけない。それは、環境教育・環境学習マスタープランで、環境教育の方向性や基本的な考えをし

っかり定めておかなければということになるかと思う。そのマスタープランの見直しについてが議題2になる。それでは議題2に移る。

◆議題2 「環境教育・環境学習マスタープランの見直しの方向性について」

【事務局からの説明】

本市の環境教育推進の基本方針である環境教育・環境学習マスタープランの見直しを平成27年度に予定している。これは上位計画である「横須賀市環境基本計画」の中間見直しにあわせて行うものである。

現在の予定では、基本方針や目標などの基幹的な部分に変更せずに、それに盛り込まれている具体的な事業等で情報が古くなっている部分の見直しを行う。具体的な内容は次回以降の会議で議論していきたいが、今回はそのスケジュールや見直し部分についてご意見を頂きたい。

高橋座長

今の説明に対して、質問、確認事項がありましたらお願いします。

このスケジュールを見ると、パブリックコメントにかけるということだ。

では、自由なご意見をお願いします。

最終的には、この冊子と同じような冊子ができるのか。

笠原主査（事務局）

冊子の作成は予定していない。現在、インターネットでの配信が可能となっているため、ホームページでご覧いただく予定である。必要であれば、印刷して配付もするが、冊子で広く周知するという事は考えていない。

野崎構成員

この冊子はどういうところに配付され、利用されているのか。

笠原主査（事務局）

300部製作し、庁内の関係部局や各学校に配付した。その後、増刷はしていない。

高橋座長

この表紙を見るとサブタイトルがある。これも決めなくてはいけないか。

笠原主査（事務局）

仰るとおりである。当時マスタープランを掲げたときには、「環境力もち」という事業

を立ち上げる予定があった。その内容は簡単に言うと人材育成を図っていくということだった。しかし、事業プランを立てていき、予算の中で具体的に事業化されておらず、サブタイトルとして残っているが、この「環境力もち」という事業がないのが現状になる。マスタープランという名称は残るが、座長が仰られたように、サブタイトルの部分は、また新たな改定後の内容や今の時代に即したスローガンのものを考えていただきたい。

### 野崎構成員

今、スローガンの話になったが、資料の見直しの方向性のところに、基本事項の変更は行わないとある。基本事項というのは、基本目標や基本方針のことを指しているということによろしいか。サブタイトルをどうするかは別として、「環境力もち」を目指すということは、環境教育に携わる人が力を得るというわけではなく、最終的には大勢の一般の子どもから大人まで全員が環境に対して、自らが考え、行動することが重要だ。したがって、自ら行動するための環境教育・環境学習をどう進めていったらいいかが、このマスタープランの一番の目的だと思う。先程の人材育成講座もそうだが、自ら行動する人がどのように増えてくるかということと、基本方針にもあるが、そのための機会づくりや場づくりを進めることが一番大事なことではないか。環境教育・環境学習に係わる者としては、そのように思う。

つまり、環境教育を推進する上で、環境の知識をもった人材育成を進めるのはもちろんだが、それだけでなく色々な方が参加できたり、活動を披露できたりする機会や場をどうやって私たちが作っていくことができるか。それをまず考えないと人材育成と言っても私たちのところでストップしてしまう。本来の目的は、どういうふうに市全体に広めていくか、場を作っていくかという方法が一番必要ではないかと思う。人材を育成するというのは、人々に知ってもらうための場をどういうふうに作っていくか、その辺りまでを考えていかないと基本方針に書いただけで終わってしまうのではないかと思う。

### 内船構成員

基本方針の4つというのは、環境教育や人に対することを色々網羅して、それを分けた項目かと思います。ここで改めて①から④を見てみるとマスタープランの12ページから16ページまでのところが、恐らく見直しの事業になってくるかと思います。そこを見てみると、やはり①以外の②～④に関しては、これまでに整理されてきている事業のような気がする。どうしても人づくりに引っ掛かるものがあり、それは野崎さんが疑問に思うことと重なることもあるかと思うが、動く人をどうやって作るかということを事業の中に展開しようとする、一方的な普及員がいて、それを情報伝達するところまでは実施できる。しかし、まだまだ一人ひとり主体的に活動する人を育てることは難しく、人づくりが本当の達成目標までいけるかどうかは、まだ難しいと感じる。4つの項

目自体は、方向として崩れていないが、達成するための事業に関しては見直しが必要と感じている。生涯学習課の高橋さんにお聞きしたいのだが、4つの項目は、生涯学習の категорияと重なってくるというか、むしろその枠組みの中で落とし込んで考えていけるかなと思うが、その辺りいかがでしょうか。

### 高橋直人構成員

生涯学習、生涯教育の中に環境教育も含まれると考えられるので、当然重なってくる。教育の進行基本計画等を作っていくときもそうだが、このマスタープランは平成15年に作成されており、その当時の現状や課題によって作成されている。例えば17ページに、各自治体における取り組みの推進、市民や市民活動団体がこういうふうに取り組んでいきたいと思いますと書かれていて、18ページには、市民活動団体はこういうかたちで取り組みましょうとある。今現在、平成26年、27年になったときに、どこまでそれが達成されているのか、具体的に市民活動団体の方たちは、どういうところまで進んでいるのかを知った上でないと、なかなか次の段階へ進むことは難しいと思う。例えば、市民活動団体の方たちにアンケートを取るなり、何か情報を得ていかないと難しいと思う。人材育成講座も改めて考え直すときに、やはり今抱えている課題や、団体の方たちは今後どうしていきたいのか等、我々はどうやっていかなければならないのかというものを盛り込んで、新たな人材育成講座を考えていくべきかと思う。そういったときに、確かに生涯学習の人づくり、機会づくり、場づくり、情報提供、普及啓発は、重なる部分がある。ただ生涯学習は幅が広く、環境だけに留まらないため、特化するの難しいが、連携できるところはしたいと思っている。

### 高橋座長

ありがとうございました。

具体的にはこれが見直しになるので、「ここのこの部分はこの内容を入れたらいいのではないか」、「ここはおかしいのではないか」、そのようなことをまとめたものを事務局に対する意見として提出する機会は、このスケジュールでいうと2月になるか。あるいは、全て事務局が作って、皆さんの意見を聞くのか。事務局が作る案に対して意見を事前出すとしたら、いつまでに出すのか、その辺りのスケジュールはどうのようになるか。

### 笠原主査（事務局）

ネットワーク会議の構成員の皆さんに、現行のプランを一から見直していただくということは今のところ考えていない。

見直しスケジュールに記載のとおり、環境基本計画の見直し素案ができるのが5月なので、ここで固まる内容を踏まえて、環境教育に絡む部分がどのように変わるかを受けて、案を作成していく。環境教育については、変わらない可能性もある。5月のネット

ワーク会議の時点では、ある程度次のマスタープランのイメージを示し、ご意見をいただく予定である。2月の会議はその前段階になるので、もう少し粗い状態、例えば環境基本計画における環境教育の部分は変わらないということを前提にしながら、先程の基本目標、4つの基本方針のフレーズを活かしたまま、素案を示し、今日のような議論で細かい表現など、こういったことを加えたらいいのではというようなお話をいただきたいと思っている。議論いただくのは2月、5月の2回になる。

#### 高橋座長

構成員の方に対して、プランの内容の具体的な変更案の提言をいつまでに提出せよということはないということか。

#### 笠原主査（事務局）

そういったお願いは予定していない。

マスタープランの見直しは、当日いきなりお願いしても難しく大きなテーマであるので、本日は次回2月に向けてイメージを持っていただくために議案として取り上げた。2月に骨子をご覧いただき、5月に審議をしていただきたい。そして、パブリックコメントを作る前の10月に、審議内容の結果をこちらの会議のメンバーの皆さんから再度ご意見いただく予定でいるので、細かく詰めるのは5月と10月の2回の予定になる。

#### 高橋座長

2月の会議の前に事務局の方針の資料が送付され、より具体的なものは5月ということでもいいか。

#### 笠原主査（事務局）

2月と5月の差というのは、2月の時点では具体的な事業が明確に出せないことにある。事業を記載するのは分かりやすいという利点もあれば、事業は毎年変わる可能性があるがあるので、その辺りの工夫は考えなければいけない。5月には、ある程度事業の名称と実施の是非が確定するが、2月はまだ未確定なのでその辺りで変動があるかと思う。

#### 高橋座長

予算措置が絡むとなると、もっと早めの方がいいのではないか。5月だと再来年の予算にならないか。

#### 笠原主査（事務局）

5月だと予定ということになるが、平成27年度に実施する事業と、引き続き28年度も行う事業を前提に掲載したい。どのようなかたちで計画に記載するかは議論の余地が

ある。実際に書いたのはいいが最終的に 28 年度は未実施、27 年度で事業終了という可能性もある。事業紹介は非常に分かりやすい情報にはなるが、議論いただくときには、事業をどのように落とし込むかというのもご意見いただければと思う。

### 高橋座長

2 月にいきなりこの話が出ると、受け取る側が大変ということで、今日の会議で概要の話があったと受け止める。

議題 1、2 の審議が終了したので事務局お願いします。

### 小澤課長（事務局）

人材育成講座ですが、環境教育指導者派遣のメンバーの指導者が 15 名、補助が 15 名程、メンバーの人数は変わらず高齢化している。新陳代謝ができないかと思っている。現在のメンバーは自然環境団体の方がほとんどです。ネットワーク会議の事業者の方が講座を設けて入っていただくとか、学校の先生は退職されてから名を連ねていただくことができるかと思う。顔を知っておいていただき、お互い誘いあって輪に入っていただくというのが、一つの人材育成講座の狙いでもある。即戦力というのは難しいと思うが、将来的に見てお互いに情報をもつていただき、会話ができて、ネットワークが広がっていけばいいのではないかと主旨で進めていきたい。今お話がありましたように、実践的なものを求めていかなければいけないかと思うが、色々な情報を知っていただくことも必要かと思う。

### 笠原主査（事務局）

3 点、連絡事項があります。

1 点目、第 16 回目の会議は来年 2 月を予定しています。詳細の日程調整は後日改めて連絡を行うのでよろしくお願いします。

2 点目は現在「よこすか ECO 通信 第 15 号」の作成をしているところです。近日中に内容の確認のお願いを送りますのでよろしくお願いします。15 号は 12 月の第 2 週に発行の予定です。

3 点目は来年 1 月 31 日土曜日に「よこすか環境フォーラム」を行います。今年も「ヨコスカ・ベイサイド・ポケット」で開催します。広報よこすかの 11 月号でも周知させていただきましたが、ステージの発表と展示を例年行い、参加者を募集しています。以上、事務局からの連絡事項です。

### 高橋座長

それでは、皆さんから情報提供がございましたらお願いします。

### 内船構成員

今月の30日まで自然・人文博物館開館60周年の写真展があるので、ご覧ください。  
また、博物館の研究の一つがサイエンスという雑誌に共同研究として掲載された。サイエンスはアメリカの著名な雑誌だが、ここに昆虫が表紙になるというのはなかなかないことで、ほんのわずかだが、横須賀という爪痕を残したということで話題としていただけたら幸いです。

### 高橋座長

それでは、これで終わります。  
ありがとうございました。